

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 615 号	氏名	吉田 (達) 聖月
学位審査委員	主 査 藤原 卓 副 査 筑波 隆幸 副 査 中山 浩次		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、<i>Staphylococcus aureus</i> の表皮剥脱毒素 (exfoliative toxin A, ETA) について、野生型 ETA、その変異体、および <i>S. aureus</i> が産生する主要なグルタミン酸特異的プロテアーゼである GluV8 の組換え体を発現、精製し、これらのプロテアーゼ活性および生物活性間の関係を検討したもので、研究目的として妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>合成ペプチド基質を用いることにより <i>in vitro</i> における ETA および GluV8 のプロテアーゼ活性を測定している。また、マウス背部皮下に精製標品を投与し、肉眼的観察および病理組織学的標本作製して組織的観察を行うことにより、<i>in vivo</i> における ETA および GluV8 の生物活性を測定している。さらに、適切な統計学解析も行われており、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>今回、初めて合成ペプチド基質を用いて <i>in vitro</i> における ETA のプロテアーゼ活性を検出した。また、<math>\alpha 1</math> ヘリックス領域はプロテアーゼ活性発現に必要であることが明らかになった。以上のことより、<i>S. aureus</i> 感染により惹起される表皮剥脱活性は、ETA のグルタミン酸特異的なプロテアーゼ活性と相関することが示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が期待できる。</p> <p>以上のように本論文は、<i>S. aureus</i> 産生グルタミン酸特異的プロテアーゼの研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			